

産業・観光・情報専門部会会議概要

1 開催状況

第1回専門部会 7月31日（月）15：00～17：00

第2回専門部会 8月9日（水）15：00～17：00

第3回専門部会 8月18日（金）15：00～17：00

2 審議の進め方

第1回専門部会及び第2回専門部会において、当専門部会が担当する分野の施策を個別に審議を行った。その上で、第3回専門部会において、議論を深め、当専門部会としての答申案を取りまとめた。

3 専門部会での委員発言要旨

30 国際化に対応した観光環境の整備されたまちをつくる

- Wi-Fi環境の整備については、那覇市のみの視点になっており、インバウンドの視点から県全体での環境整備が必要ではないか。
- 観光環境の整備には、バリアフリーの視点が必要である。
- インバウンドへの災害対策（サイネージ等）など施策間に横串を通すことが必要である。
- 福祉、防災、インフラ整備など様々な行政分野において、部門間の連携を図り、市民だけでなく、観光客や来訪者を対象とした施策が必要である。
- 観光客と市民とのふれあいを通して、リピーターを確保するためにも、市民としてどうかかわれるかという視点があると良い。

31 那覇らしい観光資源の発掘・創造と魅力のあるまちをつくる

- 継承される伝統文化に「空手」をキーワードとして入れてもらいたい。
- 県立武道館、沖宮の前の碑など那覇市としての情報発信にも取り組んでももらいたい。
- 指標が対象としているもの等を含め妥当性を検討したい。
- 「まぐろ」のプロモーションには、県の施策と連携して取り組んでももらいたい。
- 世界水準の観光リゾート地を目標とするとあるが、那覇市が目指す世界水準とはどのような状態かを掲げてはどうか。
- 観光収入額の算出方法が、説明を受けなければわからないため、筋書きが見えるように記述してもらいたい。
- スポーツコンベンションの取り組みのキーワードとして「リハビリ」「医療ツーリズム」を盛り込んでももらいたい。
- 「琉球泡盛」と「琉球料理」を世界文化遺産に指定する取り組みがあるため、キーワードとして盛り込んでももらいたい。

32 戦略的産業及び新たな産業の振興により稼げるまちをつくる

- 戦略的産業には観光産業も含まれているため、施策 31 の指標として掲げている観光収入を指標として再掲することを検討してもらいたい。
- 指標の基準年度を 2014 年度としているが、最新の数値を採用すべきである。
- 企業誘致で外から呼び込むだけでなく、内発的に産業を発展させる視点も大切ではないか。
- 「3 那覇空港第二滑走路増設による経済活性化」の説明が総論となっているため、取り組みの方針を具体的にイメージできる表現に修正した方がよい。
- 「IT 創造館における」とあるが、同施設は既にフル稼働状態となっているため、メカル 45 の活用も念頭に置いて「IT 創造館をはじめとした」という表現に修正した方がよい。
- 「稼げるまち」は、那覇市の風格が失われるという意見がある半面、行政の意識が雇用の確保や人材開発といった市民所得を向上させるという方向に変わってきていると評価できる一面もある。国の施策とも連動している。
- 那覇市が稼げるまちに近付いているか、市民所得を向上させることができたかが図れる指標を設定すべきではないか。

33 商工業が発展するまちをつくる

- 取り組みの柱が 7 つに対し、指標の設定が 1 つであるため、複数の指標設定が望ましい。例えば、開業率や廃業率など。
- 後継者の育成・確保のほかに「事業承継」をキーワードとして入れてもらいたい。
- 「伝統的工芸産業」に泡盛も含めて考え、表現の修正と指標の設定を検討してもらいたい。

34 農水産業が生き活きとしたまちをつくる

- 市内専業農家などのデータを把握したうえで、新規就農者を増やす取り組みが必要ではないか。
- ハーブの生産が盛んという印象がある。販路を開拓することで、所得も向上するのではないか。
- 観光産業との連携から亜熱帯の野菜や花の栽培に力をいれると良いのではないか。
- 新規就農者の支援と言っても市内には農地がほとんどないため、どこに就農する人を支援するのか。
- 市内には、就農希望者はいるが農地はない、市外には、農地はあるが就農希望者がいない状況があるため、近隣市町村と連携して農業の振興を図るような那覇市の特徴がみえるように表現を修正してもらいたい。
- 泊漁港の再整備は、実現性はあるのか。
- 「マグロ」と「まぐろ」が混在しているため、整理が必要。

35 那覇港の物流・交流拠点機能を強化し、世界に開かれたまちをつくる

- 施策 32 の「那覇港総合物流センター設置による経済活性化」を再掲しても良いので

はないか。

- うるま市の製造業用地も不足している状況がある。物流関連のみではなく製造業の立地も視点に入れてはどうか。
- ポートセールスの取り組みを那覇港管理組合と連携して那覇市も取り組んでもらいたい。

36 オープンデータが活用されるまちをつくる

- オープンデータを活用できる「人材育成」が必要ではないか。
- 「リーサス」の存在を広めることも大事であり、国から人材を派遣する制度も活用しながらスピード感を持って取り組むことが重要である。
- 「産官民学」の順序について、整理すべき、最近では、金融も含めて「産学金官」もある。
- 指標の設定について検討してもらいたい。

37 みんなが笑顔で楽しく働きやすいまちをつくる

- 介護・福祉サービスにおける雇用確保は、産業分野に分類されるのか。
- 「労働力不足」に対する取り組みも必要ではないか。指標の設定も検討してもらいたい。
- 那覇市の貧困率に関するデータはあるか。また、非正規率、失業率のデータも全国や沖縄県と比較すると取り組みの方向性も明確になるのではないか。
- 非正規率の改善は、企業側の側面と労働者側の側面の両面からのアプローチが必要であり、具体的な方向性を示してもらいたい。

38 産業を支える人材が育つまちをつくる

- 「外国人材の活用の検討」とあるが、既に検討の域を出て推進する段階にあるのではないか。
- インバウンド対応だけでなく、産業全般での活用の視点が必要である。
- 高齢者雇用の推進について、那覇市で取り組んでいる事業等はあるか。
- 外国人や高齢者は既に労働力として重要な存在となっている。
- 経営人材、ミドルリーダー人材の育成に対象を絞らず全ての分野での人材育成に取り組む必要があるのではないか。柱書きの修正を検討してもらいたい。
- 障がいのある人も働きやすい環境を構築するよう福祉政策ともリンクさせて、産業振興に位置付けてもらいたい。

39 商店街やマチグッーなどが賑わうまちをつくる

- 中心商店街の歩行者通行量の 97,925 人の数値の計測地点はどこか？⇒国際通りはじめ 19 カ所の合計数値となっており、12 月の平日と休日の平均値となっている。
- 中心市街地に客を呼び込む際の問題として観光客の動線があげられ、駐車場の問題がある。駐車場も含めハード面（バスのロータリー、パークアンドライド、ペデストリアンデッキ）の整備が必要である。

- 新文化発信拠点施設
- 建物を近代化しても人を引き付けるかどうかは別問題で、農連市場が再開発によって観光客が訪れるかどうかわからない。
- バスの駐機場問題では、添乗員がお客さんを集めきれしていない状態で、バスを呼んでしまい渋滞が生じている状況があるため、アナウンスする人を配置しなければならない。
- バスターミナルに観光客用のバスを駐車できないか検討している。その際、国際通りをバスターミナルまで延長することを検討してもらいたい。
- 国際通りを訪れる観光客が荷物を預ける場所がないため、荷物を預けたい客と預かって良い店舗のマッチングを行う事業を開始する。
- 訪れる客に対してトイレが不足している。
- 観光客が増加している現状だからこそ、おもてなしの受入態勢だけでなく、災害、防犯、テロ対策等をデジタルサイネージの設置も含め検討しなければならない。
- 観光危機管理に関する計画を策定する必要があることを観光審議会でも議論しているところである。
- 観光客の受入体制を整備する際、住民のストレス軽減を意識して対応してもらいたい。
- 「安全安心の取り組み」として取り組みの柱を追加して、取り組みの方向性を加えること。
- 市民の意識として、国際通りは観光客が行くところで生活ために行く場所ではないということが挙げられる。市民県民が訪れたいくなるような「個店の魅力づくり」への道筋があると良い。
- 個別ではいいお店があるが、全体としてのイメージが観光客のための通りというイメージがあるため、イメージ向上のための情報発信が必要である。
- 通行量は増えているが、店舗全体で4割が前年を上回り、6割が前年を割っている。内訳は3年以内が1/3、昭和57年以前が1/3、それ以外が1/3となっている。店舗の入れ替えが行われているが、ドラッグストア等のインバウンド対応の店舗に置き換わっている。
- 北海道の物産店がオープンするため、各県のアンテナショップが集まってくると地元客が戻ってくるかという検証ができると思う。
- 地元にお金が落ちていない状況が見えており、数年はその傾向がさらに進むことが予想される。マーケットが拡大する中で厳しい競争状態にさらされた個店に対し、個店の魅力づくりに対して行政がどれだけ支援できるか検討してもらいたい。
- 県外資本、外国資本が入ってくることによって、那覇市の良さを活かしつつ、市街地が活性化されることは良いことではないか。
- 賃料が高騰しており、高額商品を買わないと採算が取れないため、県内事業者が出店できない状況が出るだろう。
- 指標の最終目標値については、県民に戻ってきてもらうメッセージを発するために高い目標を掲げてもらいたい。
- 商店街振興組合の組織力を強化する仕組みにおいて、新規参入者が加入しやすくな

るよう加入率を上げる取り組むことにより組織力を強化できるのではないか。

- 商店街組合に加入し、指導・助言することにより、白色申告から青色申告に移行する事業者が増えることは那覇市にとってもメリットがある。
- 商店街組合として加入するメリット(マップづくり、ホームページのリニューアル、多言語化)をつくり加入率向上に努めている。
- 国際通りへの県外観光客の誘致につながるイベントを誘致する取り組みを検討してもらいたい。
- 天神の商店街は、MICEの応援するために盛り上げている。地元の意識が高まっていけば、関係機関との煩雑な調整も乗り越えていける。情報収集しながら施策を検討して頂きたい。

40 中心市街地の再整備など魅力あるまちをつくる

- 水上店舗の課題は、民間だけでは厳しいだろう。行政がエリア全体を検討し、ゾーニングを示し、ある程度のコストをかけることが必要だと考えている。
- 火災、水害対策の情報共有と連携体制の強化を図ることが必要である。
- 指標について、1つだけでなく追加を検討してもらいたい。
- 外国人観光客や中心商店街に特化した「安全、安心、快適」「災害、防犯、テロ対策」等をキーワードとして盛り込んでもらいたい。
- 新文化芸術発信拠点には、観光客への夜間のエンターテインメントの提供も期待する。
- 高校生や大学生が中心となったアイデアコンテストなど中心商店街へ足を運ぶ施策を期待する。
- エリア全体を活性化させる議論が必要であり、「農連市場」についても活性化に向けた取り組みを検討してもらいたい。